

Ryo Simon氏ポートフォリオサイト評価レポート: 機能健全性、ユーザー体験、戦略的コンテンツ提示の分析

本報告書は、Creative TechnologistであるRyo Simon氏のウェブサイト(<https://ryo-simon-mf.github.io/>)を、デジタルプロダクトアナリストの視点から包括的に評価するものである。評価は、デザインの側面、ウェブサイトとしての機能的側面、そして主に採用担当者や協力者といった重要な訪問者が初めてランディングした際に抱く評価(並行思考)に基づいて実施された。分析の結果、コンテンツの潜在的な価値は極めて高いものの、機能的な問題とユーザビリティの欠陥がサイトのプロフェッショナリズムと信頼性を大きく損なっていることが判明した。

I. エグゼクティブ・サマリー: 現状分析と戦略的提言の概要

A. サイトの戦略的目標と現状評価

Ryo Simon氏のサイトは、自己を「Creative Technologist & Artist」として位置づけ¹、その専門性、技術力、および創造的な成果を効果的に提示することで、キャリア機会や共同研究の機会を創出することを戦略的な目標としている。

しかし、現在のサイトの構造と機能は、その高い目標達成を著しく妨げている。分析に基づく現状評価は以下の通りである。

- コンテンツの質 (**Content Value**): 9/10 (極めて高い)。豊富なプログラミング言語スキル (C++, GLSL, Python)、メディアアートツール (TouchDesigner, Unity, Ableton Live) の習熟度²、慶應義塾大学SFCでの学術的背景²、そしてソニーR&Dセンターや博報堂でのインターンシップ実績²など、技術者および研究者として非常に強力な実績が確認されている。
- 機能と技術的健全性 (**Technical Health**): 1/10 (危機的)。サイトの核となる主要ページ (Works, About, Contact, Gallery) の多くが、サーバー応答エラーまたはパスの不整合によりアクセス不能な状態にある³。これはウェブサイトとしての機能が致命的に破綻していることを意味する。

3. ユーザー体験 (UX/UI Credibility) : 3/10 (要改善)。外部からのフィードバックに基づき、プロジェクトページの不必要な視覚的動き⁷、テキストの可読性の低さ(小ささ)⁷、ナビゲーションメニューの消失⁷など、基本的なユーザビリティが損なわれている。

この深刻な機能不全は、訪問者に対し、コンテンツの内容を確認する以前に「このクリエイティブ・テクノロジストは技術的な基礎を適切に扱えていない」という致命的な第一印象を与え、プロフェッショナルな信頼性をゼロにするリスクを伴う。

B. 最優先で取り組むべき致命的な課題と即時解決策

現在、ウェブサイトはプロフェッショナルなツールとして機能していないため、コンテンツの質の高さを訪問者に届けるために、機能回復が最優先事項となる。

ページ/機能	発見された問題	緊急度	推奨アクション
Works, About, Contact, Gallery	ページコンテンツの抽出不可(リンク切れまたは404エラー)	致命的 (P1)	GitHub Pagesの設定、及び内部リンクパス(特に大文字小文字や.htmlの有無)の検証と修復 ³ 。
Worksページ(プロジェクト一覧)	画像読み込み遅延を示唆する「Loading...」表示、過度な視覚的動き	高 (P2)	不必要なJavaScriptベースのアニメーションの除去、画像ファイルサイズの最適化と遅延ロードの実装 ⁷ 。
全ページ共通	テキストの可読性が低い(テキストが小さすぎる)	高 (P2)	CSS調整による本文フォントサイズの標準化(最低16px以上)、コントラスト比の確保 ⁷ 。

II. ポートフォリオサイトの目的適合性 (Creative

Technologistとしてのブランディング)

A. サイトの役割とターゲットオーディエンスの明確化

Ryo Simon氏は、技術(Technologist)と芸術(Artist)の二重性を持つ強力なブランドを確立している¹。この二面性は独自の強みである一方で、訪問者によって求められる情報の種類が大きく異なるため、情報アーキテクチャ設計においてその違いを明確にする必要がある。

- 採用担当者/クライアント: 最も重視するのは、スキルセット、プロジェクトにおける具体的な役割、達成した成果、および連絡先への迅速なアクセスである。サイトは、機能的であり、情報の構造化能力を示す「技術者の顔」として機能する必要がある。
- 共同研究者/学術関係者: 学歴、所属研究室(徳井直生研究室²)、助成金実績²、過去の共同研究での貢献度(例:Muses Ex Echoesにおけるサウンド担当やコンセプトディレクターの経験⁹)が重要視される。
- 一般の鑑賞者/キュレーター: 作品の視覚的な魅力、コンセプトの深さ、展示の文脈(例:ICCでの展示⁹)が主な関心事となる。

B. 独自の専門性の確立と競合優位性の強調

Ryo Simon氏のポートフォリオは、卓越した技術的深さと学術的な裏付けを持っている。この資産を戦略的に活用することが、競合に対する優位性を確立する鍵となる。

分析によると、氏はC++、Python、GLSLといったプログラミング言語に加えて、オープンソース(openFrameworks, p5.js)、メディアアート(TouchDesigner, Max8)、3D/CG(Unreal Engine, Unity, Blender)を網羅する広範な技術スタックを保有している²。このハイブリッドな能力は、単なるプログラマーやデザイナーではなく、「異なる技術分野を結合して新しいものを創造できる」Creative Technologistとしての定義¹⁰を強力に裏付けている。

さらに、慶應義塾大学SFCでの経験や、森泰吉郎記念研究振興基金などの助成金実績²、ソニーR&Dセンターや博報堂といった著名企業でのインターンシップ経験²は、単なるアマチュアではない、プロフェッショナルかつ研究者としての高い信頼性(Credibility)を訪問者に提供する。

現状の最大の課題は、この質の高い情報が断片化しており、かつアクセスできない状態にある点である。ウェブサイトのフロントエンドが機能不全に陥っているという事実は、裏にある強力な技術的・学術的背景と完全に矛盾しており、訪問者がサイトの背後にある技術的な基礎を疑問視する原因と

なっている。

III. 機能性とウェブサイト構造の徹底検証と改善

A. 致命的な機能障害の解析と緊急修復

Worksページ、Aboutページ、Contactページ、Galleryページといった主要なナビゲーションリンクがコンテンツを適切に表示できない(インアクセシブル)状態にあることは³、緊急の対応を要する。

GitHub Pagesを使用しているポートフォリオサイトの場合、このような広範囲にわたる機能不全は、主に以下の技術的な問題に起因する可能性が高い。

1. パス解決のミス: GitHub Pagesは静的サイトであり、特に大文字と小文字の区別(Case Sensitivity)が厳格である。ディレクトリ名やファイル名に誤りがあると、サーバー側でファイルが見つからない(404エラー)状態となる。
2. ファイル構造の不整合: トップレベルのディレクトリ(例: /works/)と、内部のHTMLファイル(例: /works/works.html)へのリンクが一貫していないか、またはリダイレクト設定が欠落している。

これらの問題は、訪問者の離脱率を100%に近づけるため、デザインやコンテンツの改善に先立ち、最優先で修復されるべきである。

B. ナビゲーションと情報アーキテクチャ(IA)の評価

現在のグローバルナビゲーションは、Home、About、Works、Gallery、Contact、Portfolioで構成されている¹。しかし、外部のユーザーレビューでは、「特定のリンクをクリックするとメインメニューが消失する」といった、基本的なナビゲーションの一貫性に関する問題が指摘されている⁷。

ナビゲーション改善の方向性は以下の通りである。

1. 一貫性の確保: グローバルナビゲーションは、全てのページで位置、スタイル、機能が固定され、ユーザーのサイト内での位置を常に保証する必要がある。
2. 情報項目の明確化: 「Works」と「Gallery」のように、役割が重複している可能性のある項目は、その目的を明確に分離すべきである。「Works」は完成した技術的成果物と仕様に焦点を当て、「Gallery」は展示風景、制作プロセス、あるいはメディア掲載に特化するなど、訪問者が期待す

る情報の種類を定義することが重要である。

C. パフォーマンス、レスポンシブデザイン、およびアクセシビリティ

ウェブサイトのロード速度とモバイル体験は、SEOとユーザー満足度に直結する¹¹。Worksページにおいて「Loading...」という表示があること⁸は、特に画像アセットの読み込み遅延や、JavaScript処理によるレンダリングブロックの発生を示唆している。

パフォーマンスに関する推奨事項:

- **LCP/FCPの改善:** ユーザーがコンテンツを視認し、操作を開始するまでの時間 (First Contentful Paint/Largest Contentful Paint) を短縮するため¹²、Worksページでは大量のプロジェクト画像を一度にロードするのではなく、遅延ロード (Lazy Loading) を実装し、Above the Fold (ATF) コンテンツのレンダリングを最優先すべきである。

レスポンシブデザインとアクセシビリティ:

- モバイルネットワークの遅延¹²を考慮すると、サイトは全てのデバイスで迅速かつ適切に表示されなければならない。
- 外部指摘にある「Text too small everywhere」⁷は、モバイルでの閲覧において可読性を著しく損ない、ウェブアクセシビリティガイドライン (WCAG) の要件にも抵触する。フォントサイズを最低限の基準 (16px) に引き上げ、モバイルフレンドリーなビューポート設定を徹底する必要がある。

IV. デザインとユーザビリティ (UX/UI) の深掘り評価

A. 第一印象の分析と視覚的信頼性

Creative Technologistのポートフォリオは、創造性を証明する場であると同時に、情報を整理し、論理的に提示できる能力、すなわち「技術的な洗練さ」を証明する場でもある。

現在のウェブサイトは、独創性を追求した結果、一部の視覚要素が過剰なノイズとなっており、プロフェッショナルな信頼性を損なう傾向が見られる。特にWorksページでの「不愉快な動きが始まる」と

いう指摘⁷は、ユーザーの注意を散漫にし、実績の評価を妨げる。

第一印象を改善するためには、ホームページのヒーローセクションを再設計し、「AIと触覚フィードバックを融合するデザイナー」など、自身のコアな専門性を簡潔に伝える明確なキャッチコピーと、最も代表的な実績の高品質な静止画を配置すべきである。

B. タイポグラフィと情報の可読性(WCAG準拠の視点から)

可読性の問題は、サイトの情報を訪問者に伝える上での根本的な障害である。

- テキストサイズの標準化: 「Text too small everywhere」という指摘⁷に対応するため、CSSにおいて本文のフォントサイズを最低でも16pxに設定し、行間(Line Height)を適切に広げる必要がある。
- 視覚的階層の明確化: 外部で「Cryptic headings, poorly formatted」と指摘されている⁷ように、見出し(H1, H2, H3)の階層が不明瞭である場合、情報の構造が認識しづらくなる。特に情報が豊富なAboutページ²においては、Skills、Internship、Grantsなどのセクションごとに、十分なサイズの明確な見出しを設けることで、訪問者が素早く必要な情報をスキャンできるようにすべきである。

C. 視覚的ノイズとインタラクションの最適化

ポートフォリオサイトにおけるインタラクションは、訪問者の理解や体験を向上させる場合にのみ正当化される。Worksページでの「ディスコのような動き」⁷は、コンテンツの閲覧中に注意を逸らす「ノイズ」であり、即座に除去されるべきである。

プロジェクトギャラリーは、高品質な静的なサムネイル画像と、明確な作品タイトル、そしてクリック後の詳細ページへの堅牢な導線に徹することが推奨される。これにより、ユーザーはストレスなく実績の概要を把握できる。

V. コンテンツの説得力と構造化(Works, Aboutページ)

A. Works/Galleryコンテンツの提示方法

Worksページ⁸に存在する、All / Code / Object / Designによるフィルタリング機能⁸は、訪問者が関心のある技術分野やクリエイティブなカテゴリに絞り込める点で優れているため、保持すべき機能である。

しかし、作品詳細ページ(個別のプロジェクトページ)の構造化が、説得力の鍵となる。採用担当者や協力者にとって、作品のビジュアル以上に重要なのは、Ryo Simon氏がそのプロジェクト内で具体的に何を達成し、どのような役割を果たしたかである。共同作品である「Muses Ex Echoes」では、自身がサウンド担当やコンセプトディレクターという具体的な役割を持っていたことが判明している⁹。この情報を全ての作品で標準化して提示することが必須である。

作品ポートフォリオ詳細情報テンプレート(標準化必須)

項目	提示すべき情報	目的と影響
プロジェクト名	例: Muses Ex Echoes	作品の識別、認知度向上 ⁹
概要/コンセプト	制作背景、解決した技術的課題、核となるアイデア	創造性、思想の理解促進
自身の役割と貢献度	例: Technical Director, Sound Engineer, Original Concept (最も重要)	専門性の明確化、チームワーク能力の証明 ⁹
使用技術スタック	例: C++, TouchDesigner, GLSL, Ableton Live	技術的適合性の評価、採用のフィルター機能 ²
成果/影響	受賞歴(ADAAなど ¹³)、展示場所(ICC ⁹ など)、メディア掲載	実績の説得力向上、権威付け
制作期間とチーム規模	プロジェクト期間の長さ、チーム内での立ち位置	プロジェクト遂行能力の証明

B. Aboutページの詳細レビューと整理

Aboutページは、スキル、学歴、インターンシップ、研究、助成金といった重要な情報が網羅的に記載されており、情報資産としては極めて豊富である²。しかし、情報が多すぎるため、単なるリスト形式では訪問者の負担が大きい。

改善点 1: スキルセットの構造化

プログラミング言語、ソフトウェア、ハードウェア²のリストを、訪問者が一目で専門性を判断できるように、熟練度に基づき分類すべきである。

- **Core Expertise**(核となる専門性): 長期的な経験や深い知識を持つ分野(例: Creative Coding/TouchDesigner, C++, Sound Design)。
- **Proficient**(熟練): 実務で問題なく使用できる分野(例: Python, Unity, Figma)。
- **Familiar**(経験あり): 経験がある、または基本的な使用が可能な分野(例: Blender, French, Radio MC)。

改善点 2: 経験の「物語化」

インターンシップ(Sony R&D、博報堂)や助成金²の情報は、単なる箇条書きではなく、「そこで何を達成したか、どのような課題を解決したか」を簡潔に記述することで、その経験の価値と説得力が飛躍的に向上する。

VI. 潜在的訪問者の視点による並行思考レビューと改善点

A. 採用担当者(Recruiter/Hiring Manager)の視点

採用担当者は通常、短時間で候補者の技術的適合性を判断しようとする。

- 疑問 1: Ryo Simon氏のコア専門分野は何か？
 - 現状評価: 「Creative Technologist & Artist」という肩書き¹は魅力的だが、具体的に専門的なコンピタンスが曖昧である。
 - 必要な対応: ホームページに、AIや触覚フィードバック、マルチセンス表現といった具体的なキーワードを用いたミッションステートメントを配置し、専門性を明確化する。
- 疑問 2: 彼の技術は実務レベルか？
 - 現状評価: スキルリストは豊富だが、Worksページがアクセス不能であるか³、詳細ページがない場合、実務レベルの能力を検証できない。
 - 必要な対応: Works詳細ページ(Table 2)で具体的な技術的課題解決能力を強調し、

GitHubリポジトリ¹⁴への明確な導線を設ける。

- 疑問 3: 彼はチームで働けるか？
 - 現状評価: 共同作品やインターンシップ実績²はあるものの、チーム内でのリーダーシップやコミュニケーション能力に関する具体的な言及がない。
 - 必要な対応: Aboutページに「Collaboration」セクションを新設し、チームプロジェクトにおける自身の貢献(コンセプト立案、技術指導など)を明記する。

B. 協力者/研究者の視点(Collaborator/Researcher)の視点

研究者は、専門的な研究テーマや過去の研究活動の適合性を重視する。

- 疑問 1: 彼の研究テーマは何か？
 - 現状評価: 助成金タイトルから「AIと触覚フィードバック」「人工筋肉」といった研究テーマが断片的に把握できる²が、研究全体のビジョンが見えにくい。
 - 必要な対応: Aboutページに「Research Vision」セクションを追加し、過去の研究テーマと将来的な関心領域(例: Computational Creativity¹⁵の応用)を結びつける解説を記述する。
- 疑問 2: 連絡は取りやすいか？
 - 現状評価: Contactページがインアクセシブル⁶という、プロフェッショナルな機会を遮断する致命的な問題が発生している。
 - 必要な対応: 連絡導線を迅速に修復し、加えて、フッターやAboutページにメールアドレス、GitHub、SNSアカウント(@ryo_simon_mf¹⁴)を直接表示し、アクセスしやすさを最大化する。

C. 連絡導線(CTA)の最適化

連絡先のアクセスしやすさは、サイトの主要目的(機会創出)に直結する。Contactページが機能しない現状を鑑みると、以下の対応が必要である。

- 冗長性の確保: 連絡先情報またはフォームへのリンクを、グローバルナビゲーション、Aboutページ、そして全てのページ下部(フッター)の3箇所に、常に明確に配置する。
- 直接的な情報提示: メールアドレスやSNSリンクをテキストで表示し、クリック数を最小限に抑える。

VII. 総合改善アクションプラン(短期・中期・長期のロードマッ

プ)

A. 優先度A: 機能回復と基礎UXの確立 (即時～2週間)

これは、サイトがプロフェッショナルなツールとして機能するための土台を築くフェーズであり、最優先で実行されるべきである。

1. 機能障害の修復 (**P1**): About, Works, Gallery, Contact への全内部リンクパスを検証し、404 エラーを完全に解消する³。特にGitHub Pagesの静的ファイルパス解決(大文字小文字の区別)に注意を払う。
2. 基本ナビゲーションの安定化 (**P1**): 全ページでグローバルナビゲーションが固定され、一貫して表示されるように設定を修正する。メニュー消失の問題⁷を解決する。
3. 可読性の確保 (**P1**): フォントサイズを最低16pxに統一し、行間とコントラスト比を調整することで、可読性の低いテキスト⁷の問題を解決する。

B. 優先度B: デザインとコンテンツのプロフェッショナル化 (2週間～2ヶ月)

機能が安定した後、コンテンツの説得力を高め、訪問者の認知負荷を軽減するための構造化作業を実施する。

1. デザインノイズの除去: Worksページにおける「ディスコのような動き」⁷を含む、不必要なインタラクティブ要素や過度なアニメーションを削除し、実績の視覚的な提示に集中できるようにする。
2. **Works**詳細ページの標準化: 作品詳細ページのデザインと情報構造を、Table 2に基づいて標準化する。特に共同作品における自身の役割と貢献度⁹を明確に記載する。
3. **About**ページの構造化: スキルリスト²を「Core Expertise」「Proficient」「Familiar」のカテゴリに分類し、視覚的な階層を導入することで、情報過多による負担を軽減する。
4. **CTA**の追加: 全ページのフッターまたはサイドバーに、明確な連絡先情報(メールアドレスとGitHubリンク)を組み込む。

C. 優先度C: SEO、パフォーマンス、持続可能性の確保 (2ヶ月以降)

中長期的なサイトの品質とメンテナンス性を確保する。

1. パフォーマンスの最適化: Worksページ⁸の画像アセットに対し、遅延ロード(Lazy Loading)を導入し、モバイル環境での表示速度を向上させる。
2. ブランディングの深化: ホームページに、自身の専門領域(AI/触覚/サウンド)を象徴する、高品質で洗練されたメインビジュアル(静止画またはループ動画)を配置し、プロフェッショナルとしての第一印象を確立する。
3. コンテンツのメンテナンス: サイト全体のコンテンツを見直し、ラストアップデート日付¹を適切に更新し、情報が常に最新であることを訪問者に示す。

引用文献

1. Ryo Simon, 11月 19, 2025にアクセス、<https://ryo-simon-mf.github.io/>
2. About - Ryo Simon, 11月 19, 2025にアクセス、<https://ryo-simon-mf.github.io/about/about.html>
3. 1月 1, 1970にアクセス、<https://ryo-simon-mf.github.io/works/>
4. 1月 1, 1970にアクセス、<https://ryo-simon-mf.github.io/about/>
5. Gallery - Ryo Simon, 11月 19, 2025にアクセス、<https://ryo-simon-mf.github.io/Gallery/Gallery.html>
6. 1月 1, 1970にアクセス、<https://ryo-simon-mf.github.io/contact/contact.html>
7. Roast My Website - Creative Technologist : r/webdesign - Reddit, 11月 19, 2025にアクセス、https://www.reddit.com/r/webdesign/comments/1o6r71a/roast_my_website_creative_technologist/
8. Works - Ryo Simon, 11月 19, 2025にアクセス、<https://ryo-simon-mf.github.io/works/works.html>
9. Muses Ex Echoes - Atsuya Kobayashi, 11月 19, 2025にアクセス、<https://www.atsuya.xyz/works/muses-ex-echoes>
10. ryo-a, 11月 19, 2025にアクセス、<https://ryo-a.net/>
11. Improve Your Low PageSpeed Insights Mobile Score Today! - Scalable WordPress Hosting, 11月 19, 2025にアクセス、<https://roconpaas.com/blog/pagespeed-insights-mobile-score-low/>
12. Mobile Analysis in PageSpeed Insights | Google for Developers, 11月 19, 2025にアクセス、<https://developers.google.com/speed/docs/insights/mobile>
13. Asia Digital Art Award FUKUOKA|2024 Winners, 11月 19, 2025にアクセス、<https://adaa.jp/en/winners/winners2024.html>
14. ryo-simon-mf - GitHub, 11月 19, 2025にアクセス、<https://github.com/ryo-simon-mf>
15. Ryo Simon - Contact Tokyo, 11月 19, 2025にアクセス、<https://www.contacttokyo.com/artist/40409/>